

# 西日本豪雨災害 支援対策委員会ニュース No.2

2018年8月2日発行

発行所 日本ホーリネス教団 西日本豪雨災害支援対策委員会  
発行人 佐藤 義則 編集人 松島 信人  
〒189-8512 東京都東村山市廻田町 1-30-1  
TEL 042-394-7466 FAX 042-392-2877

このたびの西日本豪雨で被災されたすべての皆さまにお見舞い申し上げますとともに、主の慰めと平安を心よりお祈り申し上げます。

## ボランティアの参加を

西日本豪雨災害支援対策委員長 佐藤義則



7月30日(月)～31日(火)の2日間、すでにボランティアを受け入れ、被災した倉敷市真備町で支援活動を開始している「岡山キリスト災害支援室」(室長:草井琢弘牧師)のボランティア・ベースを、対策委員の丸山峰子牧師と訪問し、被災地の視察とボランティアの受け入れ

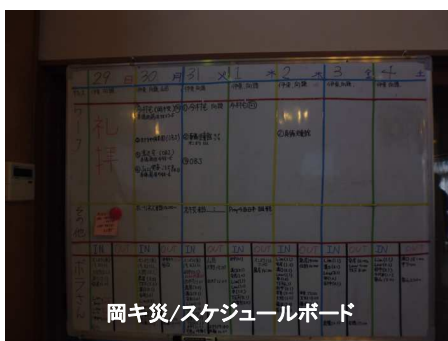
状況の確認をいたしました。

ボランティアのベース(宿泊施設)は、日本聖約キリスト教団 広江聖約キリスト教会で、吉岡創牧師の兼牧しておられる教会です。牧師が常駐しておらず、教育館が同じ敷地内にあり、駐車場も確保されています。別棟の教育館に男子35名、教会2階の牧師館に女子15名、合計50名が宿泊することができます。

体験することが一番の下見と考え、2日目はボランティアに参加しました。岡山市内のホテルを早朝5:30に出て、ベースで着替え準備をし、7:40からの出発ミーティングに出席しました。みことばの奨励、祈り、グループの派遣先の確認、注意事項が述べられ、8:00に現地へ向けて出発しました。韓国のオンヌリ教会の青年たち約15名は、真備町の児童館での奉仕のために6:00に出発していました。

9:00に倉敷市真備町箭田に到着。老舗のジャズ

喫茶店で作業をさせていただきました。倉敷らしい板張りの風格のある建物でした。すでに床下の泥のかき出しは終



岡キ災/スケジュールボード

わっていて、わたしたちはキッチンと浴室の汚れを高圧洗浄機で落とす作業と、泥水を吸って黒カビの生えている壁の解体作業をしました。猛暑のために20分働き、10分休むというインターバルで作業を行いました。休憩時間の交わりは格別でした。作業を共にした方の中に元・南極越冬隊員の女性があり、貴重な体験を聴かせていただきました。いつでも飲めるミネラルウォーターとスポーツドリンクが用意され、健康管理がしっかりとなされています。作業は14:00～15:00で終了し、ベースに戻る途中、温泉施設に立ち寄り、汗を流し、疲れをいやしてベースに戻ります。夕食は現地の教会が持ち回りで料理し、夕食を届けてくださいます。(ボランティアが数人の時は、各自で用意するとのことです)。

ベースには、韓国から10数名、シンガポールから6～7名、香港から1名と、海外からのボランティアが早々とかけつけており、驚きました。日本人のボランティアは未だ少なく、これからと思われませんが、皆さんのボランティアの参加申込をお待ちしております。



※ ボランティアの参加要項につきましては、別紙をご覧ください。

## 災害支援献金をおさげくださる方は、 以下の口座をご利用ください。

- \* 郵便振替 00190-4-545635
- \* 口座名 日本ホーリネス教団緊急支援対策室
- \* 通信欄に「西日本豪雨災害のため」と明記してください。
- \* 郵便振替の控えをもって、領収書と代えさせていただきます。